



表紙 みんなが参加の
芸能祭・芸術祭
(中里村公民館)

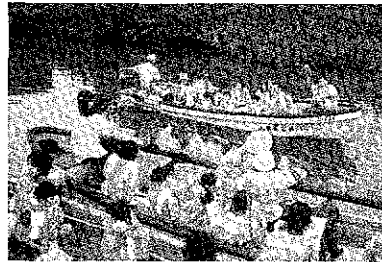
特集 人権・社会同和教育事業の紹介
第25回全国公民館研究集会より

祝点 芝居づくりは地域づくり
ひろば 地域に根ざした公民館活動を
サークル交流 ジェームス先生の楽しい子ども英会話教室
(豊栄市中央公民館)
鹿瀬町混声合唱団 (鹿瀬町公民館)
素顔拝見 丸山幸宏さん (十日町市)
上杉俊弘さん (金井町)

第55回優良公民館表彰 新潟市東地区公民館が受賞す



△地域NPO連携の発表



△通船川の川下り



△東地区公民館のスタッフ

平成十四年度 文部科学大臣表彰を受賞して

新潟市東地区公民館

今年度は、十月二十四日に、五十四の公民館が全国優良公民館表彰を受賞しました。当館も、今回、その栄に浴することができました。

これもひとえに、県生涯学習推進課、下越教育事務所、県公民館連合会をはじめ、ご指導いただきました関係各位の皆様のご支援の賜物と心から御礼を申し上げます。

新潟市には、中央公民館と十の地区公民館があり、その一つとして当館があります。

これを機会に、当館の主な事業を紹介させていただきます。

当館では、従来から、地域づくりの取り組みを積極的に展開してまいりました。工場地帯を流れるドブ川「通船川」を課題に環境セミナーを開催し、地域住民の自主グループを育成し、現在も連携を継続しています。また、地域に養護学校と県立女子短大が隣接してあることから、短大と連携して、ウォークラリーを開催し、障害児と地域住民の交流を図りました。感謝した住民は、学校、自治会、民生委員や老人クラブの団体など

で構成する自主組織を作り、地域活動として取り組んでいます。それから最近では、新たな手法による事業の展開を試みています。

ひとつは、地域学で、「まちづくりワークショップ」の手法を用いて、参加者の想いを中心に住民の主体的学習を展開しています。舟下りなど、体験的学習を大切に、講師は地域の人を発掘し、自治会館などで「出前講座」を開催しています。

次に、学校と地域の連携をテーマにした「東にいがた共育ネットワーク」があります。ここでは、小学校で行われる総合学習の子どもの発表の場に、地

域住民や他校教員も参加しています。学校の先生と地域住民では、活動や組織の原則が異なるため、「緩やかなネットワークづくり」という新たな形の「輪づくり」で活動を進めています。そして、幼児を持つ母親の自由な居場所「子育てサロン」を実施しています。ここでは、同じ悩みを持つ母親同志によるエンパワーメント的学習スタイルを試行しています。

今後、地域とともに、生涯学習社会における学び合いの支えになる公民館として努力してまいりたいと考えております。皆様、なお一層のご指導をお願いします。

県公連関係

栄えある受賞者

◇文部科学大臣表彰(社会教育功労者)

元新潟市市民館運営審議会委員

中野 滋 様

◇新潟県教育委員会教育功労者表彰(社会教育)

元新潟市坂井輪地区公民館長

稲葉 幸次 様

◇全国社会教育委員連合会長表彰

糸魚川市公民館運営審議会委員長

松田 鐵夫 様

『公民館運営審議会委員の手引—改訂版—』完成!!

A4判 500円 68ページ (送料実費)

『全公連50年史』(社)全国公民館連合会

B5判 3,000円 450ページ (送料実費)

新潟県公民館五十年誌

A4判 3,000円 313ページ (送料実費)

平成14年度

新潟県社会教育団体懇話会総会

〔平. 14. 10. 30(水)
 ・新潟県土地改良会館
 ・24人の参加を得て〕

諸般の都合で遅れていた県社団懇総会は、改装なった新潟県土地改良会館で、24人の参加を得て開催された。

今井昭友会長代行の開会あいさつ、来賓紹介、参加者の自己紹介等の開会セレモニー。

協議1では、①平成13年度事業並びに決算報告、②平成14年度の役員選任がなされ、会長には小林美代子現会長が再任された。ついて③平成14年度の事業計画並びに予算案が原案どおり承認された。

当面する行政課題については、県教育庁生涯学習推進課伊藤課長から、文科省関係の15年度事業等と市町村合併に伴う社会教育施設関係等の動向についての情報提供がなされた。ついで、県立生涯学習推進センター岩田忠満所長から、事業の紹介、参加状況についての説明がなされた。

協議2では、加盟各団体からの重点事業、取り組み状況についての説明がなされた後、完全学校週5日制の実施に伴う各団体の具体的な取り組み状況について意見交換がなされた。

会議終了後、会場を移して情報交換会が行われ、各団体の交流、友好親睦がなされた。

視 点

源流とする
 保倉川と小
 黒川流域は
 古来より肥
 沃な土地で
 あり、多く
 の人々に恵
 みをもたらしてきた。

同時に、豪雪と地
 りの多発地でもあり、
 常に自然との厳しい闘
 いの中で生き続けてき



た流域でもある。

この中山間地帯に位
 置づく大島・蒲川原・
 安塚の三町村は、昔よ
 り交流が深く、近年農
 山村社会のひずみとも
 言うべき一過疎・少子
 高齢化・山間地農業間

法はなしとの共通認識
 に立ち、芝居づくりは
 地域づくり」を合言葉
 にして一九九一年に立
 ち上げたのである。

芝居づくりは地域づくり

素人芝居『大浦安』十二年の歩み

松岡 中庸

題不足」などの共通
 の課題を抱えている。

この問題を克服する
 には、地域の住民が主
 体的に受け止めて考
 え、そして問題提起し
 て行く以外に解決の方

ありのままに舞台で演
 じ続けることである。

脚本は勿論のこと、
 演出から登場人物まで
 地元住民の希望を生
 かし、全員が主役であ
 ることをモットーにし

二年間演じてきた。
 この間、地元公演か
 ら新潟県民文化祭への
 参加や、東京・長野で
 の公演など、幅広い活
 動を続けてこられたの
 も、地域にこだわり地
 域の人々が主役の素人
 芝居の意気込みに、多
 くの観客が共鳴し応援
 してくれたお陰と感謝
 している。

出演者の中で、「安塚
 自由学園」の生徒が自
 分探しの演技をみせた
 のも印象的であった。
 (大島村教育委員会
 教育長兼大島村公民館
 長)

地域に根ざした公民館活動を

妙高村公民館運営審議会委員 中戸 義賢



当村の
 公民館で
 は、前か
 ら地域づ
 くりの一
 つとし
 て、「生活の見直し」に取り
 組んできたが、昔からの習
 慣もあり、成果が上がらな
 いのが実状である。
 そこで、今年度は次のよ
 うなスローガンのもとで、
 四つの柱をたてて取り組みを
 している。

ひ る ば

「あしたの妙高村を創る
 運動」人々を呼ぶ活力に満
 ちた健康で、村を愛する人
 づくりの村、これが私達の
 願いであり、村民の一人ひ
 とりの理解と協力で、あし
 たの妙高村を創る運動の推
 進を!!
 四つの柱。

一、「つながり」の輪を広げま
 しょう。

・近所の人には気持ちのよい挨拶を。
 ・お年寄りや体の不自由な人達にいたわりを。
 ・子ども達に明るくひと声を。
 ・地域の行事や奉仕活動に喜んで参加を。
 二、「もったいない」の気持ち

を大切にしましょう。
 ・古い物・使わない物を捨てる前にもう一度見直しを。
 ・ムダ使いやムダの買物をしていないか。
 ・水道・電気・灯油などムダに使っていないか。

三、「ふれあい」のある交際をしましょう。
 ・出産・病氣見舞・香典は三千円以内、近火見舞は千円以内。
 ・お返しは止め、お礼の挨拶は口頭かはがきで。

四、「美しいふるさと」をつくりましょう。
 ・廃品・空缶・ゴミは決められた場所に。
 ・屋外での食べがらや吸殻は家に持ち帰る。
 ・除雪や排雪は近所や往來の迷惑にならないように。

かつて、上村捨二郎さんが「地域に根ざした公民館活動」というお話の中で、本県では「地域づくり」に関わる取り組みが、消極的のように思われると指摘されておられた。

近年、地域においても人間関係が希薄になっており、消費生活の見直しもクローズアップされていることから、心と物を大切に、地域社会づくりを願っている。

事業の紹介

5分科会及び平成14年度社会同和

(4・5面)



△講義中の嶋田講師(14年度県社会同和研修より)

5面から

3 人権学習への移行について

昭和63年に「生涯学習町づくり事業」の国の指定を受け、「同和問題学習講座」を「町民学習講座」に変更するなど同和教育から人権学習へと転換の兆しが見え始めた。これを決定的にしたのが、平成4年に行った意識調査の結果であった。調査は、成人者を対象に行ったのであるが、同和問題にかかわる調査でありながら、驚くことにその回収率が80%を超えた。この調査の信用性を認め、調査結果として、人権意識の高揚という大きな器の中で、残された同和問題の解決を考えた方がいいとの意見が大半を占めたことを受けて、今日周東町では生涯学習の重点施策として、人権学習の推進をあげている。

生涯学習とは、ただ単に興味を生かして余暇を楽しむだけでなく、多くの学習活動を通じて、仲間づくりとか健康づくりなど意図的な活動で自分を高め、地域を良くしていこうという意欲的な活動が伴って初めて生涯学習といえるのである。その中で、人権問題をどのように取り上げていくのか、とりわけ同和問題についてどのように向かい合えばいいのかが、今後の大きな課題である。

4 自らの取り組みについて

- (1) 公民館を住民の学習施設として認識し、学習環境の助成を図る＝学習活動のための条件づくり。
- (2) 教育的内容の提供＝学習活動の目標、内容、方法等の研究。
- (3) 学習要求を公民館事業に反映させるための研究＝教育研究サークル森の会。
- (4) 学習要求の把握＝統計、事例、討議、専門家の意見。
- (5) 必要課題への理解＝地球懇談会の開催。
- (6) 住民参加型イベントの企画と運営＝文化祭、スポーツ祭り、健康マラソン等。
- (7) サークル活動への助言＝30分講座の依頼。
- (8) 住民組織との連携＝自治会、生涯学習推進委員会、婦人会、子ども会、環境衛生委員会等。
- (9) 教育ボランティアの活用＝学習体験や人生経験を生かす。自らの実行。

5 公民館の企画運営について

住民参加ということが行政など多くの分野で叫ばれ、着実に増えてきている。しかし、学習活動となると、表向きは運営委員会とか実行委員会とか呼ばれていても、行政が主導であり、本当の意味の住民参加とはいえない部分がある。

住民参加には大きく分けて3つの型があり、ひとつは受動的な参加で、あらかじめ用意された学習プログラムの中から自分の好みによって参加する型、2つ目は、運営に参加する準能動的な参加で、あらかじめ用意されたプログラムや計画に基づいて、言われたとおりの役目を果たす型で、内容が十分に飲み込めていないから、やり逃げたという充実感がなく、不平を言うにとどまることが多い。三つ目は、企画運営に参加する能動的なもので、最初から汗と知恵で深くかかわっているから苦労が生きがいになりつながり、次への発展が期待できる。受動的な参加ももちろん大切であるが、そこから一歩進んで、参加から参画への踏み出しがなければ、21世紀を展望する学習活動は期待できない。

6 まとめ 紙面の都合で略



△講演中の角岡講師(14年度県社会同和研修より)

特集

人権・社会同和教育

第25回全国公民館研究集会第
教育指導者研修会より

人権尊重の社会づくり

～地域に根ざした人権・同和教育の推進について～

山口県玖珂郡周東町周東町中央公民館

元館長 萩野武文

1 町の概要について

周東町は、山口県の東部に位置し、人口約15,000ほどの小さな町である。特別な産業はほとんどなく、小規模な兼業農家を中心で、岩国、徳山方面への就労が多い。特別措置法の指定を受けた地域は、大小合わせて14カ所に及び、全人口の1割強を占めていると言われている。

2 同和対策の推進状況について

(1) 同和対策事業は、昭和28年ごろ、ごく限られた人たちによって行われていたが、昭和37年に国の財政措置(モデル事業の指定)を受けて、本格的な事業への取り組みが始まった。

対策事業の取り組みについては、対象地域を中心に行われる事業だけに、賛否両論いろいろな意見が交錯したが、多少の問題点は覚悟しながらも、環境改善や生活文化の向上を思えば取り組まざるを得ない状況であった。主な施設としては、保育所、児童館、隣保館、簡易水道、児童遊園、教育集会所、かんがい用水路など、地域ごとの小さな希望事業も大切にしながら、周辺地域や町内の状況を踏まえた、広域的な事業の実施に当たったのである。

(2) 同和教育については、昭和35年の秋、山口県教委から同和教育実施の要請があり、翌年に「同和教育推進市町村」の指定を受け、さらに、昭和37年には、町の中心校である小中学校が文部省の研究指定校になり、本格的な同和教育が展開されることになる。当然のように対象地域の中には動揺が走り、見違えるように改善されていく環境とは裏腹に、困惑の度を増していく人たちも多かった。

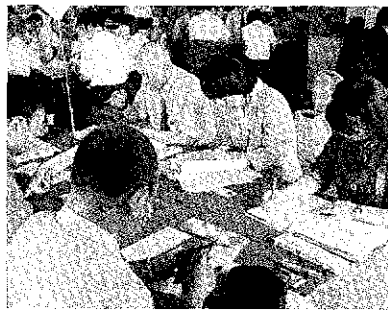
昭和41年に同和教育研究所が設置され、一般会計予算に初めて「同和教育推進費」が計上され、ようやく社会教育での本格的な取り組みが始まった。

昭和48年、同和対策事業が始まって10数年目にして住民組織「同和教育推進委員会」が発足し、町の広報紙へ「考えよう同和問題」が掲載されるようになり、全町民へのアピールが始まることになる。「考えよう同和問題」は、「人権コーナー」として現在も継続されており、(平成11年「あゆみ」として編集保存)これを見ると、周東町が歩んできた、これまでの様子がうかがえる。そして、昭和54年、「同和問題学習講座」が開設され、2年目を迎えたこの講座をきっかけに、講組みの再編成という大きな成果を上げている。

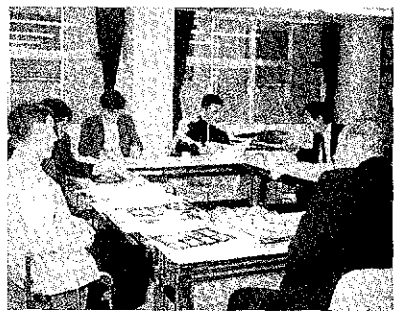
このように真剣に同和問題と向かい合い、25年の歳月を要して、ようやく大きな成果を見ることになる。昭和60年、町制30周年を記念して、町民待望の「町民憲章」が制定され、その中の一項目に、「人間の尊厳を守り 輝く未来を開きます」が明記され、さらに、生涯学習推進大会において、「生涯学習宣言」を採択し、自己の人生を充実し、真に生きがいのある人生のために、住むに値する、この町に住みたいと思える町を、町民1人1人が創造していく実践活動を呼びかけたのである。



△分科会討議 (岩淵部員撮影)



△分科会打合せ (角山部員撮影)



△記録集の校正作業

第43回関東甲信越静公民館研究大会 広報部会からの報告

広報部会副部長 近藤 敬

「公民館の挑戦」「学び」から「活動」そして「創造」「へい」というダイナミックなキャッチを掲げた今回の「第43回関東甲信越静公民館研究大会」、広報部一同は、このコンセプトを大切に

は市の広報紙づくりのチャレンジランであるほか、なななんと泣く子も黙る美術の学芸員で、業者さんもビビルという鋭い感性の持ち主でありました。

「公民館の挑戦」「学び」から「活動」そして「創造」「へい」というダイナミックなキャッチを掲げた今回の「第43回関東甲信越静公民館研究大会」、広報部一同は、このコンセプトを大切に

は市の広報紙づくりのチャレンジランであるほか、なななんと泣く子も黙る美術の学芸員で、業者さんもビビルという鋭い感性の持ち主でありました。

「公民館の挑戦」「学び」から「活動」そして「創造」「へい」というダイナミックなキャッチを掲げた今回の「第43回関東甲信越静公民館研究大会」、広報部一同は、このコンセプトを大切に

は市の広報紙づくりのチャレンジランであるほか、なななんと泣く子も黙る美術の学芸員で、業者さんもビビルという鋭い感性の持ち主でありました。

「公民館の挑戦」「学び」から「活動」そして「創造」「へい」というダイナミックなキャッチを掲げた今回の「第43回関東甲信越静公民館研究大会」、広報部一同は、このコンセプトを大切に

は市の広報紙づくりのチャレンジランであるほか、なななんと泣く子も黙る美術の学芸員で、業者さんもビビルという鋭い感性の持ち主でありました。

「公民館の挑戦」「学び」から「活動」そして「創造」「へい」というダイナミックなキャッチを掲げた今回の「第43回関東甲信越静公民館研究大会」、広報部一同は、このコンセプトを大切に

は市の広報紙づくりのチャレンジランであるほか、なななんと泣く子も黙る美術の学芸員で、業者さんもビビルという鋭い感性の持ち主でありました。

「公民館の挑戦」「学び」から「活動」そして「創造」「へい」というダイナミックなキャッチを掲げた今回の「第43回関東甲信越静公民館研究大会」、広報部一同は、このコンセプトを大切に

は市の広報紙づくりのチャレンジランであるほか、なななんと泣く子も黙る美術の学芸員で、業者さんもビビルという鋭い感性の持ち主でありました。

「公民館の挑戦」「学び」から「活動」そして「創造」「へい」というダイナミックなキャッチを掲げた今回の「第43回関東甲信越静公民館研究大会」、広報部一同は、このコンセプトを大切に

は市の広報紙づくりのチャレンジランであるほか、なななんと泣く子も黙る美術の学芸員で、業者さんもビビルという鋭い感性の持ち主でありました。

「公民館の挑戦」「学び」から「活動」そして「創造」「へい」というダイナミックなキャッチを掲げた今回の「第43回関東甲信越静公民館研究大会」、広報部一同は、このコンセプトを大切に

は市の広報紙づくりのチャレンジランであるほか、なななんと泣く子も黙る美術の学芸員で、業者さんもビビルという鋭い感性の持ち主でありました。

「公民館の挑戦」「学び」から「活動」そして「創造」「へい」というダイナミックなキャッチを掲げた今回の「第43回関東甲信越静公民館研究大会」、広報部一同は、このコンセプトを大切に

は市の広報紙づくりのチャレンジランであるほか、なななんと泣く子も黙る美術の学芸員で、業者さんもビビルという鋭い感性の持ち主でありました。

「公民館の挑戦」「学び」から「活動」そして「創造」「へい」というダイナミックなキャッチを掲げた今回の「第43回関東甲信越静公民館研究大会」、広報部一同は、このコンセプトを大切に

は市の広報紙づくりのチャレンジランであるほか、なななんと泣く子も黙る美術の学芸員で、業者さんもビビルという鋭い感性の持ち主でありました。

新 潟 日 報

2002年(平成14年)8月30日(金曜日)

公民館の役割探る

豊浦で関甲信越静研究会

第四十三回関東甲信越静公民館研究大会兼第五十三回県公民館大会が二十九日、二日間の日程で北浦豊浦町の月岡温泉で始まった。十一都県の公民館関係者約千百人が地域の拠点である公民館の現状や課題について話し合った。

初日の全体会では、新潟市中央公民館運営審議会副会長の雲尾周氏が「社会教育の広い活躍、学校との連携」などを呼びかける基調提案を行った。この後、学校週五日制における子ども体験活動や居場所づくりなど十五の分科会に分かれての結びつきが希薄化して、討議を行った。

分科会開始前の打合せです。シャッターをきる指も震える一瞬でした。

角山 稔

また広報部の業務は続いておられますが、県公連の今井会長さん、鈴木事務局長さんには、こ

れまで一方ならずご指導をいただきました。また、各部会のご協力に感謝申し上げます。第一印刷所の唐沢さんには大変お世話になったことを申し添えて、中締めのご報告とさせていただきます。

※転載について、新潟日报社、了承済み

サークル交流

異年齢集団で

生き生き楽しく英会話

ジェームス先生の楽しい 子ども英会話教室

この教室は十年前、親子でプロの演劇や音楽を鑑賞する会（旧豊栄おやこ劇場）で充足しました。子どもたちに木物の素晴らしさを知って欲しいという親たちの願いが、観ることから体験することへ発展し、現在まで続いています。先生はアメリカ・コネチカット州出身で、英会話を中心とした教室です。ここでは、校区や年齢も異なった子

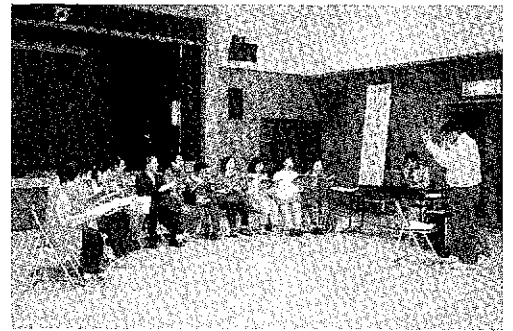


どもたちが、伸び伸びと英会話を楽しんでいます。コインやカードを使ってゲーム感覚で英語に親しみ、また先生が外国人ということもあり、時折ふれる異文化も子どもたちには新鮮です。言葉は道具とは正にこのことで、子どもたちが柔軟に言葉を使って遊び、交流している姿を見ると、本当に嬉しくも頼もしくもなります。

たくさんの可能性を秘めた子どもたちに、豊かな文化環境の場をつくってゆきたいと改めて感じながら、この子どもたちがどんな大人になってゆくのか楽しみです。

（豊栄市同会 渡辺 純子 記）

毎月、第一、第三（第五）の火曜日、夜七時になると歌好きが公民館に集います。専門の指導者はおられません。専属のピアノもありません。集うメンバーは、ほぼ全員が楽譜はハ長調しか読めません。おいおいそれで合唱団かなのです心が配りません。それはそれは心温まるハーモニーが講堂に響きわ



たります。小学校PTAの有志から始まったこの団が、山間の町で小さな灯を消さずに続いているのは、合唱経験の無い素朴な方々の集いだからでしょう。指導者もピアノも、ハ長調しか読めなくて、何にも怖いモノがないのです。寄り添って、認め合える音を出し合って歌う、いつも合唱の原点にいます。

先般は、町の高齢者対象のふれあい昼食会に招かれて、「秋の小学校唱歌メドレー」を歌いました。高齢者の皆さんが、ありし日を想い、頬染め涙を流し、我が団に合わせて大きな声で歌ってくださいました。合唱って、ホントにいいもんですね。

（同団代表 清野 浩 記）

十日町市水沢地区公民館

主事 丸山幸宏 さん

公民館勤務2年目、公民館勤務は初めてで、しかも住民は約六千人と村並みの規模に加え、常勤職員は用務員を含めて三人という体制のため、当初は戸惑いがあったようでした。

現在は学級や講座を担当しています。少人数のため、企画・立案をして運営に加えて施設管理や会計処理など雑多な任務もあ



理や会計処理など雑多な任務もありますが、確実にこな

素顔拝見

金井町教育委員会生涯学習課

主事 上杉俊弘 さん

「あつ、上杉さんだ！今日は」と、中・高校生から、よく声をかけられます。平成八年に町職員に採用となり教育委員会生涯学習課にて七年目、少年学級や地域子ども会等々を担当。子どもたちからは、親しみと絶大な信頼を得ています。仕事に対しても、少年のような瞳と心でプランニングを行い実施しています。そして彼は、子どもだけではなかったのです。公民館の各教室生や、芸能発表会の実行委員会をはじめ、関係者の皆様方と



す実力派です。温厚な人柄もあって、まさに地区公民館の顔になっていきます。

役所に入ってから柔道を始め、今では庁内柔道部事務局や少年団の指導・現役選手としても活躍、今年は三段に昇進、持ち前の粘り強さで公私多忙な毎日を過ごしております。

お嫁さん募集中とか、時間を作って恋人探ししてもらいたいと期待しています（取越し苦労かも）。

（水沢地区公民館館長補佐 桜沢 一成 記）

上杉スマイルで、暖まった雰囲気を醸し出しているのです。彼のいる所には、笑顔あり。職場の中でも、大きな存在（体は大きくない）となっています。

また、昨年彼の上司になった新米の私に、情熱と誇りをもって生涯学習や公民館運営について語る彼に期待しています。

二児のパパである彼は、家庭や職場で輝いています。

（同課 宮城 徹 記）

惠贈資料紹介

出雲崎町公民館だより

気がかけながら紹介の遅れましたこと、お詫びいたします。

平成14年5月号で第300号、11月号で第306号となった息の長い公民館だよりです。

このたよりの特徴は、何と云っても職員の手づくりによるものだ、ということ。素朴であたたかみのある記事が掲載

出雲崎町中央公民館

され、それが紙面から読み手に伝わって参ります。

企画、編集、印刷、全てにわ



たつてご苦労の程がにじみ出ております。

10月号の紙面のトップは、生涯学習フェスティバルの開催です。学ぶ楽しみ、生かす喜びもシリーズ掲載しております。

それでは、発行・編集にあたられている出雲崎町中央公民館並びに、出雲崎町民体育館のスタッフの皆様方の苦勞に敬意を表する次第です。

「関プロ大会事務局総括」その3

○お礼・あいさつ回り

大会が成功裡に無事終えたことを確認した後、早速当日、今井会長共々、全面支援していた豊浦町芹野町長様、関根教育長様にお礼に参上した。

翌週月曜日には、会長に随行し、県教育庁主管課である生涯学習推進課、そして運営面で全面支援をいただいた下越教育事務所社会教育課及び県立生涯学習推進センターを訪れ、直々にお礼を述べた。

○月報の特集及び大会記録集の作成

広報部会近藤副部会長の総括でも述べられているが、月報10月号では大会各部会長の総括、11月号の県外各県執筆者の総括にもあるとおり、内外共に評価は高かったようである。

○最後に輸送部の総括

月報特集には掲載できなかったが、炎天下、誠意あふるる交通整理していただいたことを付記しておきたい。感謝のみ。

惠贈資料紹介

熱と光を

6月21日、県社会同和教育調査指導のお手伝いで、新発田隣保館を訪れた折、館長さんから贈呈を受けたものです。

今月は、12月4日から人権週間、10日は世界人権デーです。

当公民館月報も6年前から12月号では4・5面で社会同和教育の推進について特集しておりますので、この冊子も紹介することといたしました。

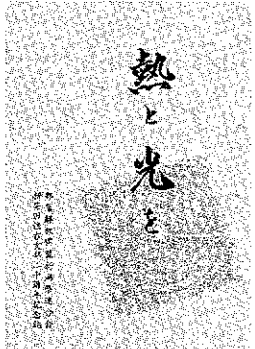
内容は、支部二十年の歩

部落解放同盟新潟県連合会新発田住吉支部

新発田住吉支部二十周年記念誌

み、部落の昔と今の生活・解放運動と出合っ、部落の歴史、新発田市における主な差別事件・解放運動と成果、若者

熱と光を



差別に正対して、過去から今日に至るまでを堂々と記述しているところに、本書の特徴があります。また中・高校の同和教育担当教員、同和教育関係者が編集に携わっておられますことも付記させていただきます。

あとがき

◆第43回関プロ研究大会記録集5回の校正を経て、ようやく本刷り刊行の運びとなりました。広報部員の方々の苦勞に心から感謝したいと思います。

表紙解説

みんなが参加の芸術祭・芸術祭

毎年文化の日、中里村では、保育園児からお年寄りまで、みんなが参加の芸術祭・芸術祭を行っています。上手・下手ではなく、みんなが出品・出演して、はめ合っ楽しんでいきます。

(中里村公民館)

発行所 新潟県公民館連合会 〒951-8053 新潟市川端町2-9・県林業会館内 TEL・FAX (025)224-6073 発行人 会長 今井昭友 編集人 事務局 鈴木友大 印刷 第一印刷所 〒950-8724 新潟市和合町2-4-18 TEL(025)285-7161 FAX(025)282-1776 【定価1部150円 年共1,800円】

大会運営費の方も、どうか黒字決算が見込めそうで、この面でも関係者のご尽力に感謝いたします。ありがとうございます。12月20日(金)実行委も解散の予定。(鈴木 記)